

おめでとうございます



神崎町長
石橋 輝一

神崎町の今をみつめ、

未来をみつめて

新年あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、国内の経済情勢は大企業が先行するかたちで景気が回復し、これが当面持続するものと見込まれております。

しかし、中小企業や国民が「景気が良くなった」と実感するまでには至っておりません。

国においては、経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006(骨太の方針)を定め、向こう十年新たな挑戦をしようとしております。これは2010年代初頭における国の財政収支の黒字化を目指し、財政の健全化の実現を優先課題に絞り込み、構造改革に取り組むこととしています。従って、景気回復による国の税収が大幅に増えたとしても、

自動的に地方交付税が増加することは期待できないものと考えられます。

合併については、本町のよくな小規模自治体は、避けて通れぬ大きな課題であります。

地方分権型社会における将来のまちづくりを考えた場合、本町は成田市を中心とした空港圏での合併を目指していくことが望ましいとの方針で取り組んできました。この間、県及び成田市をはじめ周辺の町村に対しても、本町の望む合併枠組みを提示し働きかけを続けてきました。幸いにしる県が提示する合併新法による合併の枠組みは本町が求めるかたちとなりました。

しかしながら、この合併実現の時期がいつになるかは予断を許さない状況であるといえます。当然その間町民に対する福祉サービスなどが低下するようないことがあってはな

らないとの方針を堅持しております。このことから、町財政の健全化は緊急の課題として対応しなければなりません。この財政の改善については、二年前から取り組み一定の成果を上げて今日をむかえておりますが、なお一層の努力が必要と考えられます。

他方、過去の多額の借入金返済と国民健康保険、老人保健及び介護保険の各事業への負担金等の繰り出しが漸増していることに加えて、人口と面積を基本として算定する新型交付税が本年度から導入されるなど、苦しい財政運営を強いられることが予想されます。

今後も手を緩めることなく、総人件費の削減や委託料などの物件費の節減策を継続しつつ、町民皆様のご支援をいただき、町民参加の協働によって明るい町づくりを励んでまいります。

本町には、自然と人という豊かな資源がありこの活用が大切であります。現在、建設中の圏央道に神崎インターチェンジの設置が決定されております。その周辺整備計画の中には道の駅、レクリエーション施設や農業体験広場の設置、利根川の有効利用もからめて地場産業の育成も計画されております。これにより町民就労の場の提供、併せて商店街の進出が可能となれば町再生の一大拠点として、未来へ大きな希望が持てるものと確信しております。

「自然と人とふれあいのまち」として築かれた本町に、この拠点構想が近い将来実現すれば、町民と都会の人々さらには外国の人との交流も生まれ、更に成田国際空港の北口玄関として都心はもとより、遙かつくば地区との中間点に位置していることを俯瞰すれば、物流、観光の場としての展望も開けると期待しているところであります。

結びに町民の皆様のご健康とご繁栄を心から祈念申し上げます。年頭のあいさついたします。